

写真特集

鉄道を武器に備蓄ゼロへ



「私たちの闘いは正義！二波にゆたたるストの中軸を担った支務員分科を代表して大野成田支部支務員分科事務局長が感動的な決意表明。横内を席巻す一戦即的元モ。



10.31夜のスト貫徹総決起集会には組合員500名、反対同盟・支援労組200名が結集。オー波を上まわゆる熱気の中にスト突入を宣言。反対同盟は120名の全戸動員でかけつけてくれた。挨拶に立つ内田行動隊長。



一部紹介 動労千葉の決起によせられた支援・激励

十一・一ジェット燃料増送阻止・反合ストに決起された動労千葉の皆さんに心からの敬意を表します。皆さんの労働者の先頭を行く断固たる闘いに学び、私達も上級機関の除名処分という厳しい状況を突破し抜く決意を新たにしました。これからあらゆる弾圧がくると思えますけれども、最後まで共に闘い抜きましょう。

全金山支部（八重樫執行委員長）

ジェット燃料貨車輸送反対闘争に対し、千教組は生活、教育環境を守るため積極的に支援闘争を強化します。千葉県教職員組合 千葉県教職員組合青年部



警視庁1500・千葉県警800名の大弾圧体制に対峙して、支援共闘会議は全国からかけつけスト防衛に起った。成田駅前を埋めつくす2500名の集会。

動労千葉1400の団魂を示した10.31、11.11減産・スト

11・1成田支部拠点第二波ストライキは、「闘いながら、闘う組織強化・拡大をかちとる」(日暮成田支部長)、「お天道様の下を胸をはって歩ける労働者になる」(村上前成田支部長)と、労農連帯を求め真に闘う労働者・労働組合のみが心の底から語れる言葉をももの見事に実現した。10・21〜22第一波ストライキに引きつぐ第二波11・1ストライキは、政府・空港公団・国鉄当局に甚大な打撃を与え、なによりも動労「本部」反動分子の「国家権力、当局と手を組んで動労千葉の闘いをつぶす」という反階級的姿をより鮮明にさせたといえる。11・1ストは、真に労働者の利益を守り八〇年代の労働運動を構築するものこそ動労千葉の闘う路線であることを多くの労働者に確信させた。さらに確信も新たに「鉄道を制し、鉄道を武器に、国鉄三五万人体制攻撃粉碎・ジェット燃料備蓄ゼロへ」突き進もう。

日刊 動労千葉

79.11.5 No. 267

千葉市要町二一八(動力車会館) (鉄電)二五八・九(公産)三三三・三三二七〇七